

平成 30 年度 碧南市病院事業報告書

1 概況

(1) 総括事項

ア 業務状況

本年度は開院 30 周年の節目を迎え、地域の二次救急医療機関として、また市民の生命と健康を守る地域の中核的な病院として役割を果たすべく尽力してまいりました。6 月には医療の質と安全の向上を図るために、日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定を更新し、10 月には 30 周年記念事業として、記念式典及び病院祭を執り行い、多くの市民の方に参加していただきました。

平成 30 年度の事業運営にあたっては、新病院長のもと、地域の中で二次救急病院としての役割を果たすため、働きやすい職場環境を作り、ひいては病院の価値を高めるよう将来投資に努めてまいりました。

30 年を経過して老朽化した入院病棟については大規模な改修を決定しました。入院患者の皆様の生活環境と職員の職場環境を改善するため、令和 3 年度末完成をめざしてまいります。また、高齢社会に適応した病床編成にするため、急性期病床の一部を地域包括ケア病床に転換し、病床利用率の向上を図ってまいりました。

医療の充実としましては、入退院支援センター、心臓リハビリテーション及び乳がん検診を翌年度以降に実施するため、入念な準備を進めてまいりました。医師の待遇改善及び経営改善対策としまして、医師のインセンティブ手当の実施も準備しております。

最重要課題である医師の確保対策としましては、市長、副市長を始め近隣医大の医局訪問を積極的に行っております。また、研修医については、修学資金条例に基づく第 1 期の修学生を募集し、2 名の医学生を確保したほか、医科大学の訪問も積極的に進めております。

設備更新工事の見直しや医療機器の購入抑制により経費の削減にも努めてきました。しかし、深刻な医師不足の影響から、年度末現在の医師数は前年度末より 5 人減の 41 人となり、消化器内科の診療制限もあって、医業収益は減少となり、対前年度比 2 億 7 千万円余の悪化となりました。入院患者一人当たりの診療単価は昨年度とほぼ同程度の 46,310 円でしたが、入院患者数は 3,774 人の減少となり、その影響から、入院収益は前年度比 1 億 7 千 6 百万円余の減少となりました。

医業費用では、医師の減少に伴い給与費が減少したこと、医業収益の減少に伴い材料費が減少したこと等により、対前年度比1億2千3百万円余の減少となりましたが、医業収益の減少が大きかった影響から、平成30年度の当期純損失は10億8千2百万円余となり、対前年度比1億5千6百万円余の悪化となりました。

イ 患者数

入院患者（退院含む）は、84,128人（1日平均230.5人）で昨年の87,902人より3,774人の減、また、外来患者数（時間外含む）は、165,655人（1日平均678.9人）で昨年の181,279人より15,624人の減となりました。

ウ 収益的収支

病院事業収益は6,901,267,430円、病院事業費用は7,983,288,132円で、当期純損失は1,082,020,702円となりました。

エ 資本的収支

資本的収入は1,222,358,000円、資本的支出は1,588,513,077円で、収支不足額は366,155,077円でした。

収入については、一般会計からの繰入として出資金352,438,000円、企業債369,900,000円、長期定期預金満期による回収金等500,020,000円を受け入れました。

支出については、電源装置更新工事、電話交換機更新工事等の建設費として110,502,120円、ナースコール機器等の機器備品を購入するための資産購入費として260,926,257円、ほかに企業債償還金（元金）として、698,604,700円、投資として医師、看護師等修学資金貸付金18,480,000円、その他投資（長期定期預金）500,000,000円を執行しました。

以上が平成30年度の決算概要であります。今後は平成30年度に投資した資源を活かし、サービスの向上と経営の健全化を図ってまいります。